

2021 オフィシャルズマニュアルの主な修正点について 0401

JBA 審判 Gr.

1. 第2章 ターミノロジー「プライマリ」

【変更】

それぞれのポジションに位置する審判が責任を持つ**範囲のこと**。プライマリとアングルを持っている審判が責任を持って判定を下す。

【解釈】

プライマリという言葉にいくつかの意味や関連する使い方があるため、プライマリとは上述の通りターミノロジーにて整理。プライマリの指す意味は「審判が責任を持つ範囲」とし、例えばプライマリとはそれぞれがレフェリーする範囲（エリア）を指したり、その審判がプライマリとして時計の管理をする範囲を指したりする

2. 第4章 四原則から IOT への移り変わり

【変更】

オールウェイズムービング → **ポジション・アジャスト**

ペネトレーション → **ステーショナリ&ディスタンス**、ステイウィズザプレー

【解釈】

以前の四原則が現在の言葉に移り変わる中で、より実態に沿った形の言葉に置き換え。

3. 第7章 タイムアウトと交代

【変更】

2PO において、残り 2 分でタイムアウトが請求された際のマニュアルの調整



【解釈】

2PO では、次にトレイルになる審判がボールをもって移動。タイムアウト後のスローインがフロントコートか、バックコートか決定した後にスムーズなゲームの再会を促すために調整。

4. 9-5, 9-7-1, 10-8 ショットが行われたときのカバレッジ

【変更①】

スリーポイントラインに極めて近い位置からショットが放たれ、そのショットがツーポイントエリアから放たれた場合など、判断の難しい場面でボールがバスケットに入り、2点を認めるときは、スコアラーに2点を認めるシグナル（審判のシグナル5）を示す。通常のショットで明らかに2点の場合には、特にシグナルを示すことはしない。

【変更②】

「フリースローが成功したときは、その手で1点を認めるシグナル（審判のシグナル4）を示す。（図69）」は削除

【解釈】

明らかに2点、または1点であることが一目瞭然のケースにおいて、必ずしもカウントのシグナルを必要としないことを調整。

3点の場合には審判の両手が上がっていることを確認する。

ただし、上述の通り、得点数に関する判断の意見が難しい場面、そしてゴールテンディングやバスケットインタフェアの場面ではそのショットによって何点が認められるかのシグナルを従来通り行う。

5. 9-4-2, 10-7-2 スローインの位置

【変更理由】

審判の笛が鳴ったあとボールがバスケットに入ったため、得点が認められるか認められないかの判断が必要な場合で得点が認められないとき、そのあとのスローインは、フリースローラインの延長線上のアウトオブバウンズから行う。



【解釈】

ファウルなどの判定の後でボールがリングを通過したとしても、そのショットが明らかにカウントされることがないと誰から見ても一目瞭然である場合、必ずしもサイドラインからスローインをする必要はないという理解。例えば、ファウルの判定の後ボールはパスされ、パスを受け取ったプレーヤーがショットしたなどの場合、ファウルの判定をされた事象と、ボールがリングを通過した事実は無関係であるため。